

活動記録書

開催日: 令和4年12月1日(木)「曇り」時々「雨」	開催テーマ: 頼朝と鎌倉歴史文化交流館
開催場所:鎌倉市	記入者:松崎 寛
参加人数: 会 員 25名、準会員 0名、ビジター1名 合 計 26名	
<p>コース:JR 鎌倉駅～(寿福寺)～源氏山公園～銭洗弁財天宇賀福神社～佐助稲荷神社～鎌倉歴史文化交流館～鎌倉駅</p> <p>曇り空のなか、最初と最後に多少の雨に降られたが、まずまずの天候だった。 まずは寿福寺をめざして歩くと、途中に教会があった。実は鎌倉の教会の数の密度は長崎より多い。鎌倉には隠れキリシタンが多かったのも、明治になって各教派が鎌倉に入った結果のようだ。 寿福寺の巽の方角を守っていた巽神社を経て、寿福寺に着く。1992年8月に建てられた源実朝生誕800年の記念碑が総門の右側にあった。すなわち、生まれたのが1192年。昔覚えたイイクニツクロウ鎌倉幕府の成立の年(今は1185年が有力だそうだ)。実朝の歌によく出てくる千鳥と波が描かれている。 寿福寺にある北条政子と実朝の墓と言われている五輪塔は、江戸時代は頼家(寿福寺開基)と栄西(寿福寺開山)の墓と言われていた。時代によって変わってきている。</p> <p>参道を経て、源氏山に登り始める。男5名、女3名の我々の班は、階段ではなく、山道を選択した。最初の岩の間を抜ける急登を全員が登り切ると、皆のなかから拍手が起こった。 しばらく登って、紅葉に染まり始めた鎌倉の街が一望できるところがあった。イチョウの黄色が鮮やかである。実朝はたくさんの歌を詠んでいるがイチョウの歌は一首もないそうだ。すなわちイチョウはそのころ鎌倉にはなく、今あるイチョウは4～5百年の樹齢ではないだろうか、とのこと。 扇谷上杉氏の家宰であった太田道灌の墓が中腹にある。今の英勝寺のあたりに太田道灌の館があった。英勝寺は 太田道灌の血筋をひき徳川家康の側室となった「お勝の方」と呼ばれた英勝院が建てた寺。英勝院は水戸家初代藩主徳川頼房の養母となる。英勝寺は、江戸時代に大いに栄えた寺であった。 黄色と赤の紅葉が綺麗な所に差し掛かる。「楓はカエルの手のようだったので万葉の時代には『カエルデ』と言った。それが『カエデ』となっていった。また、緑の葉から黄色や赤に変わる様を『モミスル』といった。そこから、色が変わった葉を『モミジ』と言うようになった」とのこと。 源氏山の頂上には頼朝の像が立っている。その下ったところに大きなクスノキがあった。樹齢は100年以上経っているかと思ったが、実は80年ぐらい。クスノキはもともと西国の木であり神奈川県には全くなかった。鹿児島県人である初代県知事がクスノキを植えることを推奨したため、公園や学校にたくさん植えられた。</p> <p>次は銭洗弁財天。頼朝の夢枕に立った宇賀福神が 西北で仙境に湧く霊水で神仏を祀れば、人々は信仰心を持ち国内も平穏に収まる、と告げた。頼朝は泉を発見し宇賀福神を祀った。五代執権時頼が、銭をこの水で洗えば子孫は繁栄する、と言った。それ以来、銭洗いで詣でる人が絶えない。宇賀福神は、顔は老人、体は蛇。今の神社の名前は正しくは銭洗弁財天宇賀福神社。 山を下って佐助稲荷神社へ。伝説によると、伊豆に配流中の頼朝に「隠れ里の稲荷」と名乗る神霊が夢に現れ挙兵を勧めた。頼朝は託宣に従い旗揚げした。鎌倉に隠れ里と呼ばれるこの地で祠を見つけ社を建立。佐殿(スケドノ)と呼ばれていた頼朝を助けたことから「佐助」の名がついた。 鎌倉歴史文化交流館 に行く。平成29年5月15日に開館した鎌倉市の博物館。原始から現代に至る鎌倉の歴史を紹介する「通史展示」と 近くから発掘された出土品を紹介する「考古展示」を主なコンセプトとしている。特別展として「北条氏展」を開催しており、北条氏のゆかりの品々の展示がされている。私は「御成敗式目」(室町時代の写し)が興味深かった。</p> <p>最後は鎌倉駅西口に集合して解散した。</p>	
<p>参加者の状況・意見など: 今回は急な山道もあったが、全員無事に、そして皆さん元気に探訪を終了することができ、良かった。また、「カエデ」「モミジ」「イチョウ」「クスノキ」等の話題も、秋の散策にふさわしかった。 次回「新春の鎌倉」も楽しみだ。</p>	
<p>次回の予定: 令和5年1月5日(木)10時 鎌倉駅西口時計台広場 テーマ「新春の鎌倉 元八幡から二の鳥居へ」</p>	